

表現活動につなげる帯活動

竹原 春祥

(群馬県高崎市立大類中学校)

1. はじめに

今年度、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会が群馬県で開催された。これを機に、新教育課程での週4時間体制を生かした効果的な指導の工夫をテーマに、県下で実践的な研究が行われた。

私も一分科会に携わる1人として、大会の研究主題「基礎・基本を身に付け、伝えたい事柄を英語で豊かに『発信』する生徒の育成」、分科会主題「語彙・語法の習得と定着を促す効果的な指導と評価の工夫」を念頭に置き、日々の授業改善に取り組んできた。ここでは、その取り組みの一端を紹介する。

2. 語彙・語法の習得と定着

(1) 言語習得の流れを意識した言語活動

語彙・語法の習得と定着を促すためには、「習得→定着→活用・運用」という段階を踏んだ指導が大切であると考えた。そして、言語習得の過程を「インプット→インテイク→アウトプット」として捉え、それぞれの段階での言語活動の工夫と、それぞれの段階のつながりに重点を置いて授業実践を行った。

主な手立てとしては、図1のように、習得、定着、活用・運用の段階にインプット、インテイク、アウトプットの流れをあてはめ、授業の展開や単元の指導計画に言語習得の流れを意識した言語活動を取り入れた。特にインプット、インテイクの段階では、アウトプットの段階の言語活動で用いる語彙・語法の習得と定着を図ることができるよう工夫した。

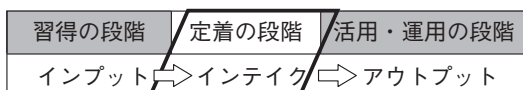


図1 習得・定着・活用の段階と言語習得の流れの関係

(2) 習得と定着のための「帯活動」

語彙・語法の習得と定着の段階で、短時間継続して繰り返し行えるような活動を帯活動として行った。数多くの活動(練習)を、毎回の授業の最初の5分、長くて10分程度で行えるように工夫した。帯活動では習得・定着のための活動を十分行い、最終的には活用・運用の段階での表現活動につなげていくことを目的とした。

(3) 帯活動の具体例

「ティーチャートーク」(聞くことの活動)

既習表現を聞かせて確認させたり、これから学習する表現を意図的に聞かせたりする活動。既習(その単元で学習したものとそれ以前のもの)の語彙・語法を使った表現を含みながら、教師がショートトークを行う。

「How many sentences?」(読むことの活動)

英文を繰り返し読んで覚える単元の導入段階で行う活動。既習の語彙・語法が入っている英文のリストから、2分程度でいくつ言うことができるか、ペアでチェックしながら行う。

「シャドーリーディング」(読むことの活動)

既習の語彙・語法が含まれている教科書や教師が用意した教材を音読する活動。教師やCDの音声に続いて、チャンクで区切って読んだり、文全体をリピートしたりして、いかに正確に読めるかを、ペアで確認しながら行う。

「プラスワン」(話すことの活動)

一問一答の対話ではなく、会話を続けられるようにするための活動。1つの質問(話題)に対して、自分の意見などを含んだ2文以上で答えられるようになることを目指し、ペアで協力して行う。

「Why-Because」(話すことの活動)

1つの質問に対して、自分の考えを入れて答えることができるようにするための活動。理由を問うようなテーマを決めて Why-Because を会話の中に取り入れ、ペアで協力して行う。

「ピクチャーテリング」(話すことの活動)

授業等で活用したピクチャーカードや教師が用意したものを、描かれている内容を説明する活動。既習の語彙・語法を使った英文を、ペアで協力してその場で考え、絵を見ながら説明する。その後、ペアで説明内容の確認をする。

「ディクテーション」(聞くこと・書くことの活動)

既習の語彙・語法の含まれている教科書や教師が用意した英文を、教師が読んだりCDで流したりした音声を聞き取り、書く活動。訂正等はペアで行う。短時間でできる活動。

「ピクチャーライティング」(書くことの活動)

ピクチャーテリングと関連した、書く活動。既習の語彙・語法を使い、絵についての説明をその場で考えて書く。書かれた英文は、教師・生徒がチェックする。書く分量の目安は、学年に応じて設定する。

「3文ライティング」(書くことの活動)

単元ごとに、場面やテーマを設定し、「事実・出来事・つぶやき」の3点について書くドリル的な活動。それぞれ1文で書くようにする。必要に応じて、日本語で課題を提示してもよい。ペアで発表させたり、「聞くこと」や「話すこと」の活動と関連を持たせると効果的な活動。

上記の「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の活動を、単独で行ったり、組み合わせて行ったりして、毎時間5分から10分程度で行うとよい。例えば、内容に関連を持たせて、「聞くこと」→「書くこと」や「話すこと」→「書くこと」のように指導していくようにする。

また、一単元の中で繰り返し継続して活動を行っていくことが肝要である。帯活動で身に付けた語彙・語法を、活用・運用の段階で最大限活用して表現できるかが大切だと考える。

3. 帯活動を行っての成果

毎時間繰り返し継続して帯活動を行ったことで、各単元の活用・運用段階の活動で、生徒一人ひとりが自信を持って楽しそうに活動を行うことにつながっていると、生徒の表情などから感じた。また、使用されている語彙・語法については、帯活動で生徒の頭の中に蓄積されたものが、活用・運用段階の活動で使われていることが、生徒の発話などから見てとれた。

4. おわりに

毎時間の帯活動を単なるパンプラクティスやドリルで終わらせるのではなく、ここで習得し定着した語彙や語法を、活用・運用の段階での表現活動につなげられるかを考えたうえでの活動にしていかなければならない。そのためには、一単元の構想をしっかりと持ち、「身に付けた語彙・語法を使えた」という達成感や充実感を生徒自身が持てるように活動を行っていかねばならないと考える。

また、各時間の帯活動に関連性を持たせ、それぞれの活動ごとに言語の使用場面や働きなどを考えた工夫をし、生徒が実際の場面で使えることを考えて指導していかねばならないと思う。

今後も私自身、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会で研究したことや、他の英語教師との連携・情報交換から得られることを生かして、日々の授業改善を図り、わかる授業、楽しい授業を行えるように研鑽に努めていきたい。